

せんだい普及センターだより

# BLOSSOM

Vol.81

令和4年11月11日発行

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320(地域農業班)

FAX 022-275-0296(共通)

022-275-8410(先進技術第一班)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

022-275-8374(先進技術第二班)

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> →



## 「秋保そば街道」を支える 農事組合法人あきう生産組合

写真：仙台市太白区秋保地区  
(10月14日撮影)

二口街道の冷涼山間の気候風土で昔から連綿と作付けされてきた玄そば「秋保在来そば」。秋保のそばの起源は、二口街道を行き来する山岳修験者や僧たちがもたらしたものとわれ、山間部の貴重な食物として作付けされました。

時代の変遷とともに作付面積が減少しましたが、地元有志が「秋保在来そば」の味を絶やすまいとそば祭りを開催したのを機に、栽培面積が増えました。また、同時に地元そば店もゆるやかに増え、二口街道をベースとした仙台のそば処「秋保そば街道」（10店舗）を訪れる方々も増えてい

ます。現在、秋保地域で生産される「秋保在来そば」のほとんどを、「農事組合法人あきう生産組合」が担っています。

※「秋保そば街道」の紹介パンフレットはこちらから→



開花期は、白いそばの花が畑一面に広がり、秋保を訪れる人の目を楽しませてくれます！（撮影9月）



## 新規就農者へのフォローアップ

普及センターでは、市町村や農業委員会、JAなどの関係機関と連携し、就農相談や就農計画作成支援、就農後の栽培技術支援を行っています。栽培技術支援では、普及指導員が月1回程度、重点指導が必要な新規就農者を対象に巡回指導を行い、栽培技術や病虫害防除対策、経営について個別に助言しています。さらに、新規就農者に対する支援としては、農業次世代人



果樹苗養成の状況確認

材投資資金などがあり、資金を活用している就農者に対して、市町村、農業委員会、普及センター、JA職員が同行してフォローアップ巡回を実施しています。この個別巡回では、営農状況、栽培技術の向上状況、就農計画の進捗状況・達成度を確認するとともに、関係機関内で就農者の情報共有を図っています。



野菜の生育・出荷状況の確認

## 仙台農業士会第1回研修会が大郷町で開催されました

仙台農業士会では、令和4年9月7日に大郷町内において、会員の相互理解を深め、経営発展の一助とするため、今年度新たに会員となった青年農業士2名の経営を視察しました。

参加者は10名で、まず、上杉一乃歩氏のりんご園の栽培状況やリンゴジュースの委託加工、自宅加工場での総菜、菓子、焼き肉のたれ等について説明を受けました。



上杉りんご園での視察の様子

次に、西塚忠樹氏から、(有)大郷グリーンファーマーズが取り組んでいる資源循環型有機農業のうち有機農産物（小松菜と水稻）の栽培状況について説明を受けました。

その後、北海道での国内先進地農業視察の報告や、次回の農業士会の研修計画等について、会員間で活発な情報交換が行われました。



視察後の情報交換の様子

## 「御用聞き訪問」を実施しています

東日本大震災の被災や農業従事者の高齢化等により農家数が減少する中で、担い手確保や集落営農組織の経営発展のために法人化が進みましたが、震災から10年以上が経過し、多くの法人は機械更新や経営承継、資材費高騰等の新たな課題を抱えています。そこで、普及センターでは重点活動の一つとして、

各地域の中核的な46法人を対象とした「御用聞き訪問」の実施により、各法人の経営課題に応じた技術支援や各種情報提供を行っています。「御用聞き訪問」がきっかけで、園芸品目の導入が具体的に進んだ法人もあり、今後も継続して経営発展に向けた支援を行ってまいります。



法人への御用聞き訪問の様子



## 女性農業者活躍支援研修会を開催しました

令和4年9月12日に東北大学農学部を会場に仙台農業改良普及センター管内10市町村のJA組織、農業委員会等でリーダーとして活躍している女性農業者の方々を対象に「令和4年度女性農業者活躍支援研修会」を開催しました。

リーダーとして活躍している女性農業者の共通の課題は、新たに参画する女性農業者が少ないことにあります。そこで、経営参画や地域農業の方針決定の場への女性農業者の参画を推進するために必要な支援策について講演等を通じて学びました。

「女性農業者が輝く農業創造のための提言について」と題した日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科川手督也教授の講演では、以前は、農業や家庭運営で従来女性の担ってきた仕事を正に評価すること等で、女性の社会的地位向上を図ってきたが、今は、時代の変化も踏まえ、家庭内での女性の地位向上という視点以上に、農業経営、つまり働き方改革やワーク・ライフ・バランスに重点を置き、経営発展や経営戦略の

確立に資するという視点で、女性農業者の位置づけを明確化する必要性があるとの話がありました。また、依然として地域に埋もれている女性が多数存在しており、「見つけて、位置づけて、つなぐ」ことが必要になっているとの講話がありました。

参加者からは、「女性農業者が活躍するためには、『家族の理解』、『男性の意識改革』が必要」、「若い人が魅力を感じるような仕組みづくりが必要」等の意見が出され、今回の研修会を通じ、女性農業者育成の重要性が共通認識として醸成されました。



研修会の様子（写真右：川手督也教授）

## <お知らせ> 肥料価格高騰対策について

世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に加え、ロシアによるウクライナ侵略等の影響により、化学肥料原料の国際価格が大幅に上昇し、肥料価格が急騰しています。

そこで、農業経営においては、効率的な施肥を行い、肥料コストを抑えることが重要になってきます。例えば、土壌診断や生育診断を行い、作物の生育に応じた無駄の少ない施肥を行うことで、過剰施肥を防止することが可能となります。また、堆肥や有機質肥料、緑肥作物の利用は、化学肥料の節減につながるだけでなく、土壌の物理性、化学性及び生物性の改善にもつながります。そのほか、単肥や低成分型肥料の利用、局所施肥なども施肥コストの低減につながります。肥料を含めた資材価格高騰等に係る技術対策の詳細については、QRコード①から御確認ください。

また、農業経営への影響緩和のため、肥料費の一部を支援する取組が始まっています。内容は土壌診断や堆肥の利用など17あるメニューから2つ以上に

取り組むことで、肥料費のうち前年から増加分の7割を支援するもので、JAや肥料販売店などを通じて農業者グループで申請いただきます。また、作付面積の大半で有機JAS認証や特別栽培農作物（県認証）を受けている方などは、取組を証明する書類があれば申請が可能です。

農業者グループから県への1回目申請（秋肥分）については令和4年11月30日が期限となっておりますが、2回目申請（春肥分）は令和5年2月頃を予定しております。必要書類（化学肥料低減計画書）は県HPからダウンロードできますのでQRコード②から御確認ください。また、農業者グループへの提出期限については肥料をお求めのJAや販売店にお問合せください。



QRコード①  
技術対策について  
(HPページ下部に紹介されています)



QRコード②  
肥料価格高騰対策事業（県HP）

## <お知らせ> 農作業安全対策の意識を高めましょう！ <管内の農作業事故の実例>

当管内では今年度、自脱型コンバインによる死亡事故が報告されています。稲刈り中にコンバインでバックして、後方で補助作業をしていた72歳の女性を轢いてしまった痛ましい事故です。コンバインの大型化に伴い、運転席からの死角が多くなりがちです。組作業をしている場合は、補助者を近づけさせない、後進する場合はホーンを鳴らしてから行うなどの事前のルールを確認しましょう。

このほかに、日常的な軽微な事故も含めると農作業事故はさらに多いと考えられます。作業をしている方はもちろん、周りの方も十分注意し農作業に取り組む必要があります。

また、今秋の農作業安全確認運動期間の重点取組項目は、「シートベルトの着用徹底」をあげています。トラクターを運転するにはシートベルトを着用しましょう（図1）。

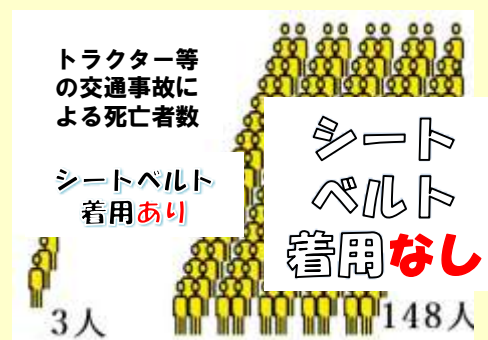


図1 シートベルトの必要性

## 令和4年度農林産物品評会・花き品評会（10月21～23日、せんだい農業園芸センターで開催）について

## おめでとうございます♪

当普及センター管内から33点（農産物22点、花き11点）の出品があり、右記の方々が入賞されました。

おめでとうございます！



果実部門2等：ぶどう  
（ムラヤマファーム・大郷町）



野菜部門（果菜類）  
2等：トマト  
（マキシマファーム  
株式会社・松島町）



野菜部門（葉茎菜類）  
3等：ねぎ  
（相澤幸雄様・大和町）



金賞：ピオラ  
（佐藤清敬様・仙台市）



銀賞：パンジー  
（佐藤敏充様・多賀城市）

## トピックス～普及センターブログより～

## 第5回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました

当普及センターでは、令和4年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、4月から8月まで毎月1回「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催しています。5回目となる8月は「適期刈取り」をテーマに開催し、生産者11名の参加がありました。

普及センターからは、生育状況、成熟期の目安、収穫作業の留意点を説明し、適期刈取りを呼びかけるとともに、栽培管理を振り返り、疑問に思う点などについて参加者全員で意見交換をしました。

初めて勉強会に参加した法人もあり、不安や疑問に対して乾田直播栽培で実績のある法人から実践的な助言が得られ、「これまでは忙しくて勉強会に参加できなかったが、これからは忙しくても参加する。」といった声もありました。

次の勉強会は、「年内中のは場準備」について12月6日（火）に開催を予定しています。すでに乾田直播栽培に取り組んでいる方だけでなく、興味があるという方の参加もお待ちしています。関心のある方は、ぜひ普及センターまで問い合わせください。

★「宮城の農業普及活動ブログ」  
のQRコードはこちらから→



職員の説明を熱心に聞く生産者

## 先進農業体験学習 終了式

宮城県農業大学の1年生58名のうち15名が、9月5日（月）から10月7日（金）までの33日間、当普及センター管内の農業者13名のもとで先進農業体験学習を実施し、10月7日に仙台合同庁舎会議室において終了式が行われました。終了式には、学生と体験学習を受け入れた農業者の方が参加しました。

学生からは「短い期間に様々な体験をさせていただき感謝している」、「教えていただいたことをこれから活かしていきたい」、「命をいただく大切さを学んだ」、「農作業以外にもいろいろ教えていただいた」などの感謝の言葉があり、農業者からは「体験学習期間中に学生の成長を感じた」、「頑張ってくれたことがうれしい」、「今後壁にぶつかることがあったら相談に来てほしい」など、学生の頑張りに対する労いやこれからの活躍に期待する言葉がありました。

普及センターでは、今後ますます充実した学生生活を送れることを期待するとともに、卒業後の就農を支援していきます。



学生からの体験学習の感想発表

JA新みやぎあさひなぶどう部会  
「シャインマスカット販売会」開催

JA新みやぎあさひなぶどう部会が主催となり、9月24日（土）にJAグリーンあさひな（大和町）、10月2日（日）に元気くん市場仙台南店（仙台市太白区）において「シャインマスカット販売会」を開催しました。

参加した生産者は、自分たちが丹精込めて作ったシャインマスカットの品質や甘いぶどうの見分け方などを紹介し、お客様も楽しそうに見比べながら購入していました。

普及センターでは、シャインマスカット栽培の取組紹介パネルの展示とともにパンフレットを配布して、産地PRを行いました。

両日とも開店前から行列ができる盛況ぶり、消費者からは「来年もぜひ開催してほしい」との要望があり、生産者も「これからも

良いものを作っていききたい」と嬉しそうに意欲をのぞかせていました。



多くのお客様でにぎわう販売会